

ライナー・フューレス ドイツ写真工業会会長挨拶

2016年2月26日 記者会見 横浜

「写真とイメージングの未来市場 - 変革による成長」

ご来場の皆様

フォトキナを共同主催する写真工業会会長として、記者会見にご来場いただいた皆さまに、心より歓迎の意を表したいと存じます。

フォトキナ 2016 の新しいコンセプトについては、先ほど詳しい案内があった通りです。この新しい取り組みによって、将来のテーマや業界の戦略的成長分野に焦点を当てるとともに、写真業界にとって最も重要な国際見本市であるフォトキナを、より拡充し強化する方向性が明確になると、確信いたしております。

写真・イメージング産業は、変化の中にあります。デジタルネットワークとIoT (Internet of Things) によって、画像は新しい生活領域に進出していきます—これは私たちにとっては大きなチャンスです。自らを新たにポジショニングし、業界をさらに強化するには、絶好の機会がやってきました。

イメージング技術はこの変化に伴い、消費の世界に限らず、他の分野でもますます活用されることになるでしょう。このことは同時に、イメージング業界の企業にとっては、新しい領域へ進出する大きなチャンスを意味します。

しかしそれは、私たち全員が、写真・イメージング産業について、これまでの考えをさらに発展させ、より明確にすることによってのみ可能になります。まずは、この変化に対して真正面から対峙することが必要です。これは関係者全員にとって、挑戦的な試みであります。なぜなら変化とは、既成概念や慣行が揺さぶられることを意味し、将来を確実なものにするためには、あまり魅力的でない決定を迫られることもあるからです。

写真・イメージングに関しては、全く新しいことを言っているわけではありません。過去の好調な時期を経て、写真・イメージングのいくつかの分野では、ここ数年つづくネガティブな潮流があります。予想より早く始まった激しい変化がその原因ですが、この変化は私たちの業界にとって、2016年及びその後新しい強みを獲得するための、大きなチャンスでもあります。私たちは共にこの機会を生かさなければなりません。というのは、写真・イメージング産業が今まさに直面しているこの変化こそが、市場の成長を意味するからです。

この新たな成長は、ダイナミックに成長するイメージング業界全体のエコシステムの一部である、新しい事業領域によってもたらされることになるでしょう。これらの新分野は、写真・イメージング産業を、持続的に強化し形成するものであり、私たちの産業の将来の重要性を高めるものであります。

先ほどイメージング・エコシステムという概念を使いましたが、今日の写真・イメージングは、システムを基盤とするネットワークとして定義されます。私たちはこのネットワークを通じ、デジタルへと転換するプロセスの利点を、経済全体

のコンテキストにおいて利用するのです。

具体的には、イメージング・エコシステムは次のように定義づけられます。

- ・ 国境の壁を超える
- ・ 技術の壁を超える
- ・ 企業の壁を超える
- ・ 産業の壁を超える
- ・ 文化の壁を超える

さらに、イメージング・エコシステムは固定的なものではなく、変化を続けていて、そこには常に新しいプレーヤー、技術、セグメント、サービスなどが入ってきます。

イメージング・エコシステムとその技術は、今日すでに人工頭脳（AI）や認知システムを開発し、自動車、医療、製造技術、家電、ゲームなどの産業の基盤として活用されています。

フォトキナ 2016 で繰り返し力説しておきたいことは、写真・イメージング業界において、日本企業は将来中心的な役割を担うということです。日本企業はイノベーションに対し積極的で、多くの特許を申請し、世界で最も独創的な技術を持つ企業群に属しています。

また、あまり知られていないかもしれませんが、日本は世界最大の投資国のひとつであり、アメリカや中国をも凌駕しています。日本の写真・イメージング産業は、そのイノベーションと勇気ある経営により、私たちの産業を今日のレベルまで高めることに貢献しました。このことに対し、日本の写真・イメージング企業の皆様に感謝したいと思います。

日本の写真・イメージング産業が、将来の業界を本質的かつ持続的に形作っていくことを、私は確信しております。イメージング業界にとって重要なイノベーションの推進者としては、研究機関のほかに、スタートアップ企業や、専門分野に特化したサプライヤーなどがあります。このような企業は機敏に市場に参入し、インターネットをベースとする技術で競争を活性化します。

2016年とそれ以降の重要なトレンドとして、このような企業と大企業との戦略的提携があります。それにより、大企業が持つインフラや経験、顧客ベースを共有することができます。最終的には、巨大ネット企業や既存の有力企業、スタートアップ企業のみならず、消費者もそのメリットを享受することができるのです。これが、イメージング・エコシステムの具体像です。

写真工業会では、スタートアップ企業を対象とする新たなイニシアチブにより、写真やビデオ機器、デジタル及びモバイルのイメージング、アプリ、ソフトウェア、サービスなどの、デジタル分野の起業家シーンに対し、強力なプラットフォームを提供します。

このような方法によりイメージング市場全体にポジティブな刺激を与え、新しい事業領域を開拓するチャンスは大きいと、

私たちは見ております。世界の有力イメージング企業も、同じ分野で活躍するスタートアップ企業も、それぞれが強みを持っており、その強みを結びつければ、別々に行動するより良い結果が期待でき、効率的な活動ができるはずです。

このようなネットワーク化とエコシステム形成は、各団体、研究機関、イニシアチブと協力し、国内外で継続的に推進していきます。9月にケルンで開催されるフォトキナ 2016 でも、私共のイニシアチブにより、イメージング産業の多くのスタートアップ企業が、新設される「フォトキナ未来ゾーン」で来訪者にその活動をプレゼンすることになっております。

ここまでは、イメージング・エコシステムの転換を中心にお話してきました。転換とは、変わることでありますが、その中であって不変のものもあり、不変のものは事業活動を推進する原動力となっています。このことは将来も変わりはないでしょう。この不変なものこそが、イメージ（画像）なのです！

視覚の生物である人間は、画像で思考し、生き、行動します。このためイメージング産業は、このような人間にぴったり合ったテクノロジーを提供しています。このテクノロジーは、あらゆる生活領域における画像の重要性を、より高めていきます。写真は感情であり情熱である—このことは将来も変わらないでしょう。

写真というメディアを活用する可能性がこれほど多様だったことは、今までありませんでした。これによって、新たな活用場面や課題が生まれています。この場でそれらすべてを列挙していると、記者会見の時間では足りないので、ここでは全体像の中から、ほんの一部を紹介させていただきます。

画像は、即座に感情に訴えかけることのできる、私たちの時代のコミュニケーション・ツールです。ここでは画像の保存は目的ではなく、一瞬のうちにストーリーが伝わるのが重要です。IDC（インターネット・データセンター）によれば、デジタルユニバースの情報量は 2020 年までに 440 億ギガバイトに達するということです。私たちが作って消費するデータ量は、特にモバイル端末での写真やビデオが増えることで、ますます増大します。そこに、新たな事業分野が生まれることは明らかであります。

4K やその進化形である 6K や 8K などのイノベーションによって、現在、写真や映画では、高速度撮影や低速度撮影のトレンドが強まっています。このイノベーションは、映画撮影と写真に革命を起こします。写真は大幅に変化し、写真家はますます映画製作者に近くなって、将来はビデオの連続画面から静止画を作ると考えられています。

一瞬たりとも撮り逃すことは許されません。撮影における最新のイノベーション技術では、シャッターを押す前後の画像も、自動的に撮影することができます。カメラの最新モデルの中には、まさにハイスピード撮影の世界チャンピオンと言わなければならないものがあり、きわめて高速の連続撮影が可能です。もちろんこの場合、データ量が拡大する一方の画像情報を処理するため、高性能のプロセッサやソフトウェア・ソリューションが必要になります。

センサーの画期的な進歩により、これまで無かった高品質の画像が可能になりました。その長所は、ディスプレイではなく、特に大判フォーマットの印刷で明確に感じられます。そのようなプリント画像を見ることは特別な経験となり、印刷されたものの自体の宣伝に役立つだけでなく、視覚的な高揚感を与えることで、イメージングそのものの宣伝にもなるのです。

カメラを装備したロボットを使えば、私たちは宇宙を手中にするだけでなく、宇宙を地上に運んでくることもできます。将来このような探検ロボットは、地球の生活を変え、革命を起こすでしょう。写真・イメージング産業はイノベーションを通じて、関係する学術研究の分野だけでなく、日常生活のあらゆる局面を豊かなものにします。ここでは例として、医療分野の最も新しい世代のカメラを挙げておきたいと思います。

新たなバーチャルな世界、およびIoT (Internet of Things) が始まり、画像とビデオは個人の生活やビジネスのあらゆる領域で、人々の行動をさらに変化させるようになります。

製造や物流においても、プロセスを変え事故を回避する、視覚センサーを備えた距離保持装置のような、イメージング・ソリューションが活用されます。

オプティカル・ヘッドマウントド・ディスプレイは、ゲーマーだけの関心事ではなく、歯科医や旅行業界でも使われるようになっていきます。旅行社のお客さんがこのようなメガネを使って旅先の風景を見て、ちょっと休暇の雰囲気を感じ、前もって目的地を見られるようになれば、旅行カタログは過去のものになるでしょう。また、360度動画だったら印象はさらに強烈でしょう。このため、そういった映像を撮れる撮影装置が求められるトレンドが生じています。

カメラやスマートフォンのメーカーはイメージング・エコシステムにおける強力な推進力であり、新しいテクノロジー領域を求め、新市場を探しています。3Dカメラ、バーチャル・リアリティ・システム、ハイレゾリューションカメラ(80MP)、360度パノラマ画像や動画撮影ができるカメラ、毎秒1000回の撮影ができるカメラ、これらはメーカーによる開発の一部に過ぎません。カメラやスマートフォンのメーカーのイノベーションは、画像の重要性を新たな位相にまで高め、そこから新たなビジネスモデルが生まれるのです。

9月にケルンで開催されるフォトキナ2016で皆さまは、私共の業界に持続的な成長を約束する、イメージング・エコシステムの限りない世界を体験されることになるでしょう。

是非、ご自身の眼でご覧になってください。

皆さまにケルンでお目にかかれることを、楽しみにいたしております。

ありがとうございました。